

带状疱疹について

子供の頃に感染した水痘(水ぼうそう)ウイルスが、生涯にわたって神経に潜伏感染し、免疫が低下することで再活性化して、皮膚に発疹がでる病気です。带状疱疹はとにかく痛く、全身どの部位にも発現します。症状の多くは上半身にあらわれますが、顔や目、頭などにあらわれることもあります。再発リスクは約 5～10%で、発症を繰り返す方もいます。治療薬を服用しても 3～5 人に 1 人が带状疱疹後神経痛に悩みます。

带状疱疹のリスク

家族歴、加齢、女性(特に出産経験のある 50～60 代)、基礎疾患ある方、免疫を低下させる病気・治療を受けている方、ストレス、睡眠不足、生活リズムが崩れている、(50 歳以上で)コロナ感染した方などです。

带状疱疹にならないためには、どうしたら良い？

体調管理も重要ですが、加齢と共に免疫が低下するので、ワクチン接種による予防が効果的です。

带状疱疹予防ワクチンについて

带状疱疹の発症率を低減させ、重症化を予防し、間接的に神経痛の発症リスクを低減させます。

※ 2 つのワクチンがあります。(下図)

	<u>シングリックス</u> (乾燥組換え带状疱疹ワクチン)	<u>ビケン</u> (乾燥弱毒生水痘ワクチン)
対象者	・ 50 歳以上 ・ 18 歳以上の全年齢 (带状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる方)	・ 50 歳以上
種類	不活化ワクチン	生ワクチン
接種回数	2 回 (約 2 か月間隔)	1 回
接種方法	筋肉注射	皮下注射
発症予防効果	50 代 : 96.6% 60 代 : 97.4% 70 代以上 : 97.9% (どの年齢でも同程度の効果) ※1	50 代 : 69.8% 60 代 : 63.9% 70 代以上 : 37.6% (加齢と共に効果が低下する) ※2
带状疱疹後神経痛に移行するリスク軽減	・ 50 歳以上 : 100%軽減 ※1 ・ 70 歳以上 : 85.5%軽減 ※1	66.5%軽減 ※3
効果の持続期間	10 年以上 ※1 (11 年以降は試験中)	3～5 年程度 ※4 (個人差あり)
主な副反応 (添付文書より)	接種部位の痛み、赤み、腫れ、筋肉痛、疲労、頭痛、発熱、悪寒など	接種部位の痛み、赤み、腫れ、筋肉痛、疲労、頭痛、発熱、悪寒など

※1 国際共同試験 Shingrix Zoster-006・022・049 試験 ※2 Zostavax の SPS 試験引用

※3 Engl J Med, 352:2271-2284, 2005 ※4 Clin Infect Dis. 2012;55(10):132

